

ヒーローじゃかいいも君



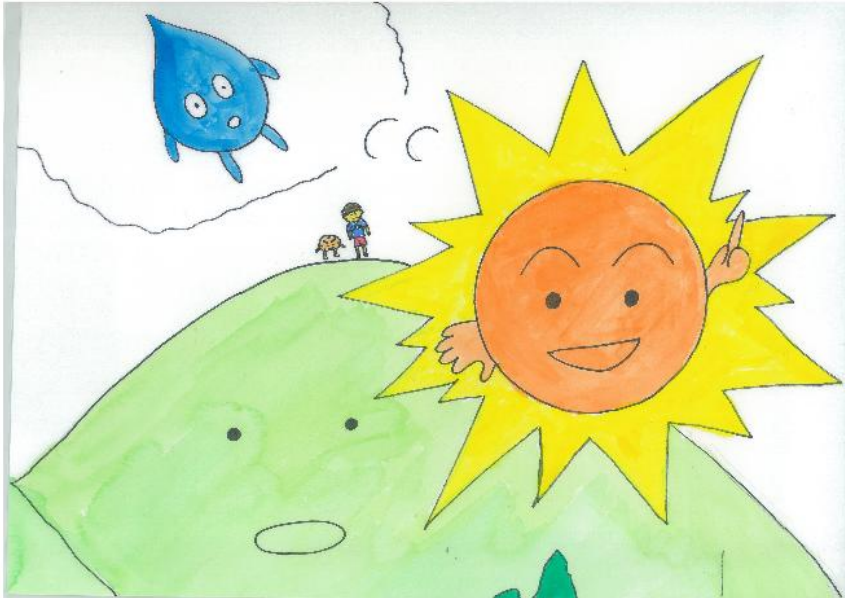
さとくんは、じゃがいもが大好きです。
フライドポテトもコロッケも・・・。
そうだ！
じゃがいも君にお礼を言いに行こう。



じゃがいも畑に行って、じゃがいも君にお礼を言いました。
すると、じゃがいも君が言いました。
「ぼくだけじゃ一何もできない。
お日様が照ってくれなければおいしいじゃがいもはつukれないんだよ。」
「えーっ！そうなの？」
そこで二人はお日様にお礼を言いに行くことにしました。



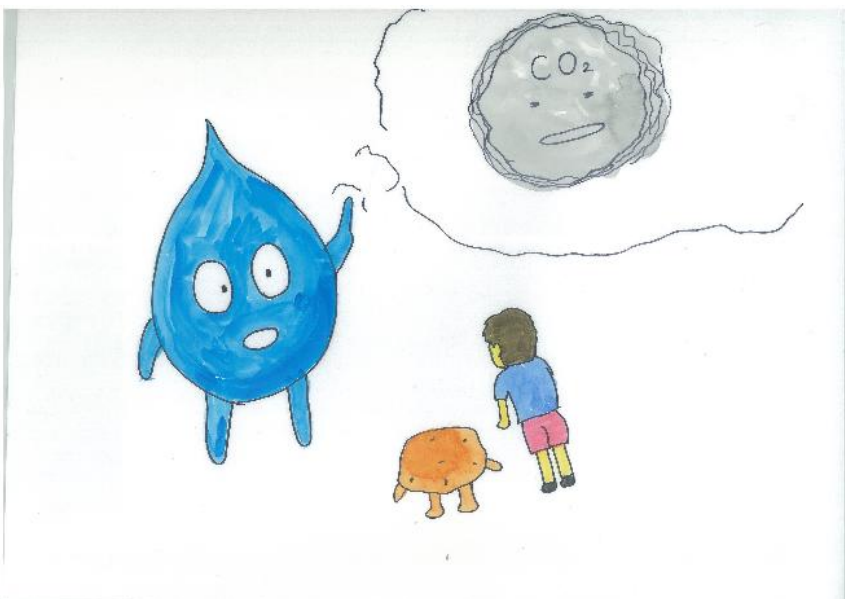
お日様は丘の上でウトウトしていました。
二人はお日様にお礼を言いました。



すると、お日様が言いました。
「いや、私だけでは何もできない。
水さんもいなくてはおいしいじゃがいもはできないんだよ。」
「えーっ！そうなの？」
そこで二人は水さんにお礼を言いに行くことにしました。



二人は野原を通り抜け、小川でお水さんに会いました。
二人はお水さんにお礼をいいました。

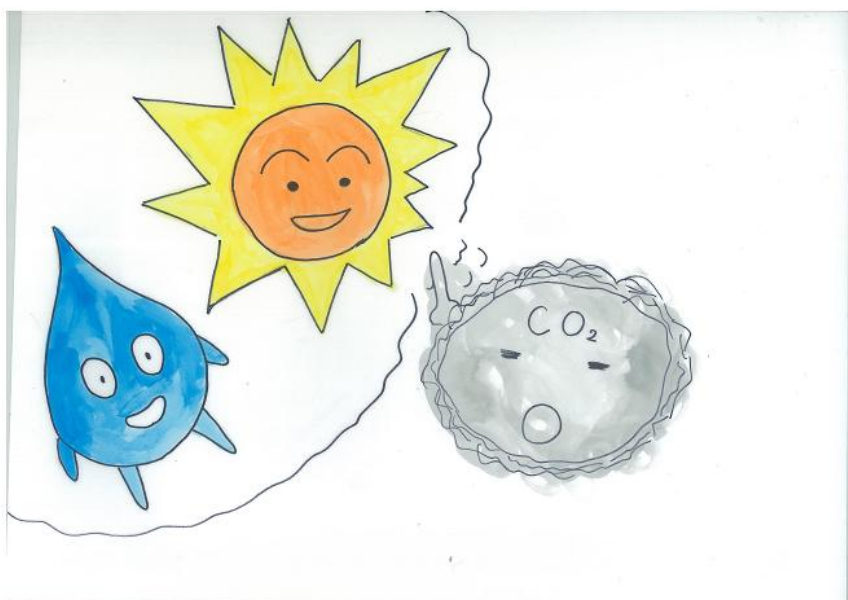


すると、お水さんが言いました。
「いや、私だけでは何もできない。
二酸化炭素さんもいなくてはおいしいじゃがいもはできないんだよ。」
「えーっ！そうなの？」
そこで二人は二酸化炭素さんにお礼を言いに行くことにしました。



二酸化炭素さんはお日様が沈んだうす暗い森でふわふわ飛んでいました。

二人は二酸化炭素さんにお礼を言いました。

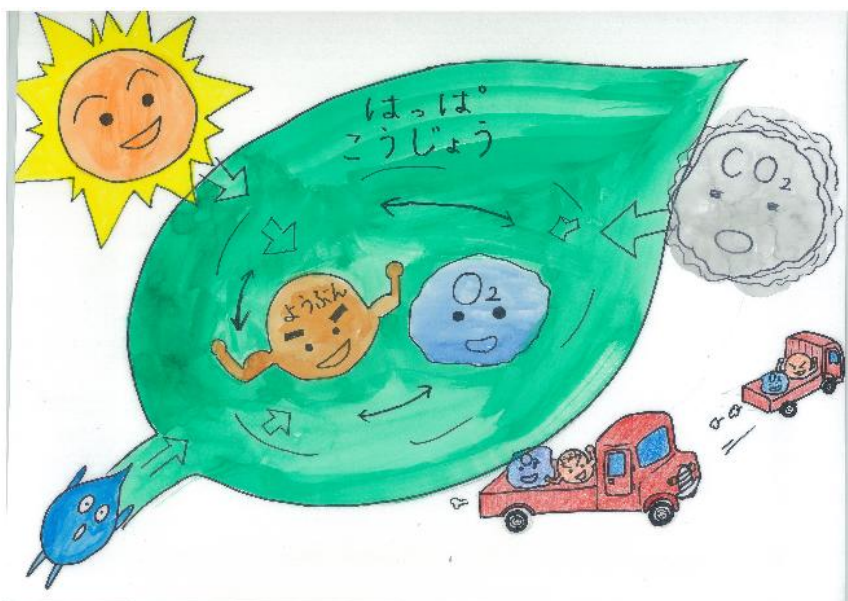


すると、二酸化炭素さんが言いました。

「いや、私だけでは何もできない。

お日様もお水さんも、僕たち二酸化炭素もいなくてはじゃがいもはできないけれど・・・。

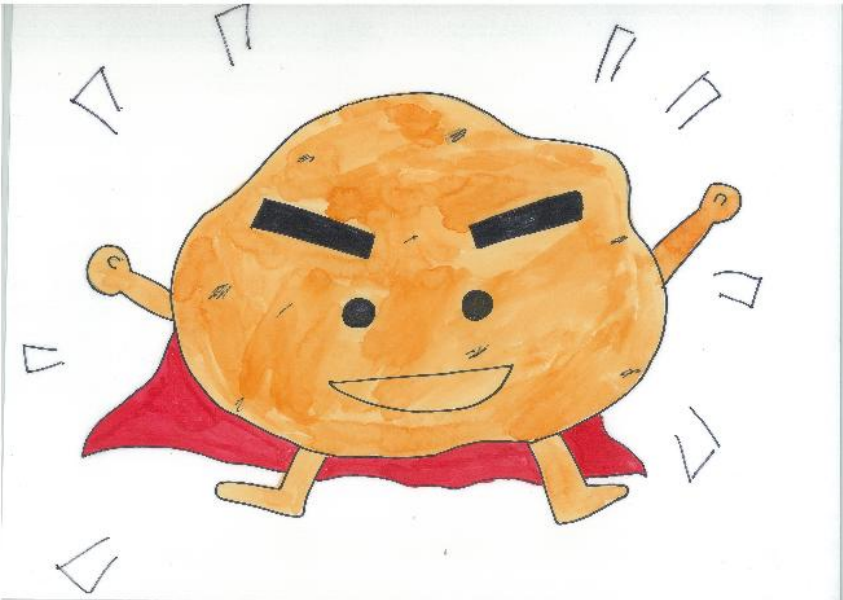
じゃがいも君、やっぱり君がいなければ、おいしいじゃがいもはできないんだよ。」



二酸化炭素さんはゆっくり説明してくれました。

「つまり、こうなんだ。君たち植物は葉っぱに葉緑体という工場を持っている。その工場では二酸化炭素とお水さんを使って、お日様の力を借りて酸素と養分を作る。その養分がおいしいじゃがいもというわけなのさ。

君たち植物だけが水や二酸化炭素という無機質を、でんぷんという有機物にできるのだよ。他の生き物はみんな植物に食べ物を作ってもらっているんだよ。」



「じゃがいも君はヒーローだね」
さと君は感心して言いました。



するとじゃがいも君が言いました。

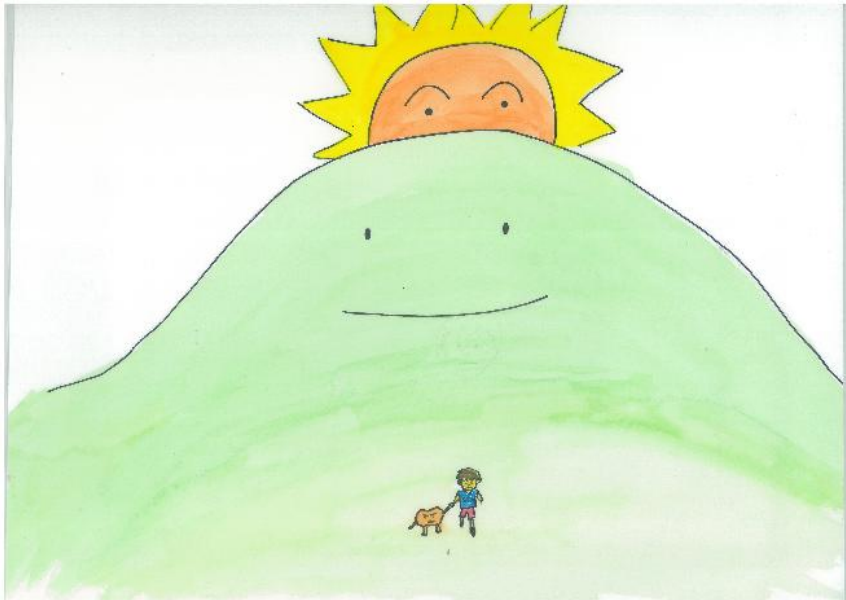
「さと君、君が僕にお礼を言ってくれたからいろんなことがわかったよ。君のおかげだよ。」

「じゃがいも君、君たち植物は地球上の生き物の栄養を作ってくれていたんだ。

ありがとう。

僕は、君たちがこれからもどんどんおいしい食べ物を作れるよう、きれいな水や空気を守りたいと思うよ。」

二人は永遠の友達の約束をしました。



二人の後姿を見ながら、お日様が静かに言いました。

「じゃがいも君、君たち植物が作っている酸素があったから、地球を取り巻くオゾン層ができた。それが太陽の紫外線をカットしたから生き物は海から地上に上がることができたんだ。君たち植物は本当に本当に地球上の生き物のスーパーヒーローなんだよ。」

「さと君、大切なことに気がついてくれたね。君たちの祖先が長い長い時間をかけて自然と関わってきた里山という文化は、何もしない自然よりずっとたくさん生き物を育てていたんだよ。皆の命はつながっている。一人では生きられない。みんなですべて幸せになるんだよ。」

おしまい。しゃんしゃん。